

環境保全行動 報告提出書
自動車使用管理実施

2023 年 7 月 27 日

(宛先) 札幌市長

提出者 住所	〒 100-8019 東京都千代田区大手町二丁目3番1号
氏名	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
(代表者名)	代表取締役社長 丸岡 亨
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	

札幌市生活環境の確保に関する条例 第 1 3 条第 4 項 第 2 3 条第 3 項 の規定により、環境保全行動 自動車使用管理実施 報告書を提出します。

報告期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日					
事業の規模	従業員数	約2,530	人	原油換算した	5136.3	kl
	使用床面積	56771.34	m ²	燃料・熱・電気の合計量		
	事業所数	7	事業所	自動車使用台数		台
	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算排出量)	エネルギー起源CO ₂ 12200 t-CO ₂	メタン t-CO ₂	N ₂ O t-CO ₂	HFC t-CO ₂	
	非エネルギー起源CO ₂ t-CO ₂	PFC t-CO ₂	SF ₆ t-CO ₂	NF ₃ t-CO ₂		
報告書の担当部署	担当部署名	ヒューマンリソース部 サステナビリティ推進室				
	担当者氏名	佐藤 雅哉				
	電話/FAX	03-6700-4225	03-5202-5055			
	電子メールアドレス	earth-protection-te@ntt.com				
計画書提出根拠	条例第 1 3 条 (環境保全行動計画)			<input checked="" type="checkbox"/> 第 1 項 <input type="checkbox"/> 第 3 項		
	条例第 2 3 条 (自動車使用管理計画)			<input type="checkbox"/> 第 1 項 <input type="checkbox"/> 第 2 項		
計画期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日					
環境保全行動 自動車使用管理実施 報告書	別添のとおり					
備考						

- 注 1 従業員数、使用床面積及び自動車使用台数は、報告に係る年度の 3 月 31 日現在で記入してください。
- 2 事業所数は、報告年度に係る年度の 3 月 31 日現在の札幌市内事業所数を記入してください。
- 3 燃料・熱・電気の合計量は、報告に係る年度に使用した量を原油換算して記入してください。
- 4 原油換算の方法は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則第 4 条に規定する方法により行ってください。
- 5 温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 2 条第 5 項で規定する方法により、二酸化炭素排出量に換算したものを記入してください。
- 6 のある欄には、該当する 内にレ印を記入してください。
- 備考 この様式により難しいときは、この様式に準じた別の様式を使用することができる。

別添

環境保全行動報告書
自動車使用管理実施報告書

1 行動目標の達成状況

【計画期間】

2022年4月1日～ 2025年3月31日

【報告期間】

2022年4月1日～ 2023年3月31日

行動目標	基準数値	目標削減率	2022年度結果			2023年度結果			2024年度結果		
			実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減	11600 t	1 %	12200 t	▲5 %	×						
法令の遵守	- -	- %	- -	- %	-						
		%		%							
		%		%							
		%		%							
		%		%							

- 注 1 実績数値が基準数値よりも増加した場合は、削減率の数値の前に▲を記入してください。
 2 結果の欄には、以下のいずれかを記入してください。
 ○：目標削減率を達成
 △：実績数値が基準数値よりも削減されたが、目標削減率は未達成
 ×：実績数値が基準数値よりも増加

2 行動目標達成・未達成の理由

行動目標	結果	理由
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減	×	オフィステナントの電気使用量が増加及びビル数が増加したため。
法令の遵守	-	省エネ法に従い、エネルギー使用の合理化に努めた。

3 行動計画の実施状況及び見直し内容

行動目標	行動計画	2022年度実施状況	2022 年度	2023 年度	2024 年度
削減事業 炭素排出量の二	空気調和設備の効率的運転	余剰空調装置の運転停止継続実施			
	高効率空気調和設備への更改	新型空調装置への更改実施			
	通信用設備の適正化(ユニット数の適正化)	通信設備需要増に伴いユニット増加			

4 その他（環境保全活動の取り組み等）の実施状況

- ・空調室外機の洗浄実施
- ・空調室内機のフィルタ清掃
- ・グリーン電力の導入（NTTコム札幌大通4丁目ビル、札幌北ビル）

燃料等使用量原油換算シート

【計画期間】

2022年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日

【集計期間】

2022年 4月 1日 ~ 2023年 3月 31日

燃料等の種類		2022年度の使用量 ①		単位発熱量 ②		換算係数 ③		原油換算使用量 ①×②×③		
事業所・工場等 (自動車等 で使用する 燃料等 自動車除く)	灯油		kL	36.7	GJ/kL	0.0258	kL/GJ		kL	
	A重油	28.25	kL	39.1	GJ/kL			28.5	kL	
	B重油		kL	41.9	GJ/kL				kL	
	C重油	0.623	kL	41.9	GJ/kL			0.7	kL	
	液化石油ガス (LPG)		t	50.8	GJ/t				kL	
	都市ガス13A (天然ガス)	35.474	千m ³	45.0	GJ/千m ³			41.2	kL	
	電力	昼間	12296.66	千kWh	9.97			GJ/千kWh	3163.0	kL
		夜間	7584.69	千kWh	9.28			GJ/千kWh	1816.0	kL
熱供給	2477.188	GJ	1.36	GJ/GJ	86.9	kL				
自動車用燃料	ガソリン (レギュラー・ハイオク)		kL	34.6	GJ/kL	0.0258	kL/GJ		kL	
	軽油		kL	37.7	GJ/kL				kL	
	天然ガス (CNG)		千m ³	43.5	GJ/千m ³				kL	
	液化石油ガス (LPG)		t	50.8	GJ/t				kL	
合 計								5136.3	kL	

- 注 1 燃料等の使用量は、集計期間内に札幌市内で使用したすべての量を記入してください。
 2 自動車用燃料については、札幌市内で管理（駐車施設保有）する車両が対象になります。
 3 事業所・工場用LPGの記入単位はtです。購入単位がm³の場合、tに換算する必要がありますが、メーカーによって体積あたりの重量は異なるので、取引先にお問い合わせください。どうしてもわからない場合は、以下の数値を用いて換算してください。

種類	1m ³ 当たりのt (トン) への換算係数
プロパン	1/502 (t)
ブタン	1/355 (t)
プロパン・ブタンの混合	1/458 (t)

また、購入単位がkLの場合は、1kL=0.56tとして換算してください。

- 4 自動車使用管理計画のみの策定義務を負う事業者は、事業所・工場等で使用する燃料等の使用量の記入は要しません。

自動車使用状況

○自動車使用管理計画策定事業者は必ず記入してください。

使用台数	台	次世代自動車※台数	台
		(うち天然ガス自動車	台、ハイブリッド自動車

※ここでいう次世代自動車とは、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、電気自動車、メタノール自動車、クリーンディーゼル自動車、燃料電池自動車を指します。

二酸化炭素排出量計算シート

【計画期間】

平成 2022 年 4 月 1 日 ~ 平成 2025 年 3 月 31 日

1 エネルギー起源CO₂排出量

【集計期間】

平成 2022 年 4 月 1 日 ~ 平成 2023 年 3 月 31 日

燃料等の種類	2022年度の使用量 ①		二酸化炭素排出量計算係数				二酸化炭素排出量 ①×②×③			
			発熱量 ②		排出係数 ③					
事業所・ (工場等 自動車 除く) で使用する 燃料等	灯油		kL	36.7	GJ/kL	0.0185 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	A重油	28.25	kL	39.1	GJ/kL	0.0189 ×44/12	t-CO ₂ /GJ	76.55	t-CO ₂	
	B重油		kL	41.9	GJ/kL	0.0195 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	C重油	0.623	kL	41.9	GJ/kL	0.0195 ×44/12	t-CO ₂ /GJ	1.87	t-CO ₂	
	液化石油ガス (LPG)		t	50.8	GJ/t	0.0161 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	都市ガス13A (天然ガス)	35.474	千m ³	45.0	GJ/千m ³	0.0136 ×44/12	t-CO ₂ /GJ	79.60	t-CO ₂	
	電力	昼間	12296.66	千kWh	—		0.601	t-CO ₂ /千kWh	7390.29	t-CO ₂
		夜間	7584.69	千kWh	—		0.601	t-CO ₂ /千kWh	4558.40	t-CO ₂
	熱供給	2477.188	GJ	—			0.057	t-CO ₂ /GJ	141.20	t-CO ₂
	小 計								12200	t-CO ₂
自動車 用燃料	ガソリン (レギュラー ・ハイオク)		kL	34.6	GJ/kL	0.0183 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	軽油		kL	37.7	GJ/kL	0.0187 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	天然ガス (CNG)		千m ³	43.5	GJ/千m ³	0.0139 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	液化石油ガス (LPG)		t	50.8	GJ/t	0.0161 ×44/12	t-CO ₂ /GJ		t-CO ₂	
	小 計									t-CO ₂
合 計								12200	t-CO ₂	

- 注 1 燃料等の使用量は、集計期間内に札幌市内で使用したすべての量を記入してください。
 2 自動車用燃料については、札幌市内で管理（駐車施設保有）する車両が対象になります。

2 エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガスの二酸化炭素換算排出量

【集計期間】

平成 2022 年 4 月 1 日 ~ 平成 2023 年 3 月 31 日

温室効果ガスの種類	2022年度の排出量 ①	地球温暖化係数 ②	二酸化炭素換算排出量 ①×②
非エネルギー起源CO ₂	t	1	t-CO ₂
メタン (CH ₄)	t	25	t-CO ₂
一酸化二窒素 (N ₂ O)	t	298	t-CO ₂

【集計期間】

平成 2022 年 1 月 1 日 ~ 平成 2022 年 12 月 31 日

温室効果ガスの種類	2022年の排出量 ①	地球温暖化係数 ②	二酸化炭素換算排出量 ①×②	
ハイドロフルオロカーボン類	HFC-23	t	14800	t-CO ₂
	HFC-32	t	675	t-CO ₂
	HFC-41	t	92	t-CO ₂
	HFC-125	t	3500	t-CO ₂
	HFC-134	t	1000	t-CO ₂
	HFC-134a	t	1430	t-CO ₂
	HFC-143	t	353	t-CO ₂
	HFC-143a	t	4470	t-CO ₂
	HFC-152	t	53	t-CO ₂
	HFC-152a	t	124	t-CO ₂
	HFC-161	t	12	t-CO ₂
	HFC-227ea	t	3220	t-CO ₂
	HFC-236fa	t	9810	t-CO ₂
	HFC-236ea	t	1370	t-CO ₂
	HFC-236cb	t	1340	t-CO ₂
	HFC-245ca	t	693	t-CO ₂
HFC-245fa	t	1300	t-CO ₂	
HFC-365mfc	t	794	t-CO ₂	
HFC-43-10mee	t	1640	t-CO ₂	
小 計			t-CO ₂	
パーフルオロカーボン類	PFC-14	t	7390	t-CO ₂
	PFC-116	t	12200	t-CO ₂
	PFC-218	t	8830	t-CO ₂
	パーフルオロシクロプロパン	t	17340	t-CO ₂
	PFC-31-10	t	8860	t-CO ₂
	PFC-c318	t	10300	t-CO ₂
	PFC-41-12	t	9160	t-CO ₂
	PFC-51-14	t	9300	t-CO ₂
	PFC-9-1-18	t	7500	t-CO ₂
小 計			t-CO ₂	
六ふつ化硫黄 (SF ₆)	t	22800	t-CO ₂	
三ふつ化窒素 (NF ₃)	t	17200	t-CO ₂	

注 1 エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガスの排出量は、二酸化炭素換算排出量が3,000tを超える項目のみ、札幌市内で排出したすべての量を記入してください。

2 非エネルギー起源による二酸化炭素、メタン及び一酸化二窒素については年度で集計し、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふつ化硫黄及び三ふつ化窒素については暦年で集計してください。

3 地球温暖化係数とは、温室効果ガスごとの地球温暖化をもたらす程度について、二酸化炭素との比を表わしたものです。